

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

- | | |
|------------------|-------------|
| ①言葉の特徴や使い方に関する事項 | 良好な結果であった |
| ②A話すこと・聞くこと | 良好な結果であった |
| ③B書くこと | 概ね良好な結果であった |
| ④C読むこと | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ② 短答式 | 大変良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・正答率が一番高かったのは、文の中で漢字を正しく書く設問だが、一番無解答率が高かったのも漢字(「積み重ね」を書く)の設問だった。
- ・前半の設問では無解答率は0%だが、後半の問題で無解答率が高くなっている。
- ・中心となる語や文を見つけて要約する設問の正答率が低かった。

分析

- ・正答率は、全国と比較して上回り、良好な結果であった。
- ・基礎・基本の学力は身につけているが、その知識を言語活動(書くこと、読むこと、聞くこと、話すこと)にいかすことができていない。
- ・「書く」設問では、自分の考えを、主語述語の関係に気をつけながら正しい文章で、端的にまとめることに課題がある。さらに、文字数などの条件が加わると、全ての条件を網羅して解答できていない。
- ・漢字の学習は、正答率が高いものの無解答率も一番高い。今後も、筆順や読み方などを正しく覚えられるよう漢字指導を丁寧に行う。
- ・後半の問題では無解答率が高くなるのは、問題の難易度以外に、問題を解く時間配分にも課題があると考えられる。

○●算数●○

(領域ごと)

- | | |
|----------|-------------|
| ①A数と計算 | 概ね良好な結果であった |
| ②B図形 | 概ね良好な結果であった |
| ③C測定 | 概ね良好な結果であった |
| ④C変化と関係 | 概ね良好な結果であった |
| ⑤Dデータの活用 | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ② 短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・棒グラフから数量を読み取る設問の正答率が一番高かった。
- ・少数を用いた倍についての説明を読み、解釈したうえで、他の数値に置き換えて説明する設問の正答率が一番低かった。
- ・無回答率0%が16問中、8問あった。

分析

- ・棒グラフなど、データの活用に関する設問の正答率が高く、グラフを読み取る力がついている。
- ・単位量あたり、速さ、割合など、主に「二つの数量の関係」に関わる問題で、正答率が下がる傾向にある。
- ・問題文が長文になっており、そもそも問題の意図を理解できていない児童もいると考えられる。情報の取舍選択や読解力など、国語力に関わる課題であるといえる。
- ・国語の問題と同様に、記述式の問題に課題がある。「式や言葉で書きましょう」という問題でも、式のみで答え、説明することを避けている傾向にある。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

国語、算数ともに、全国・府の平均を上回っており、例年と比較しても、正答率が高くなっている。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

国語・算数ともに、学力高位層の割合が高くなり、学力低位層・エンパワー層の割合が低くなっている。

○●取組み●○

課題

学力調査からは、主に「書くこと」に課題が見られた。児童質問紙からは、「国語が好き」と回答した児童が少なく、自分の考えを発表することに抵抗感をもっている児童が多いことが分かった。

学力向上に関する取組み

書く力(記述力)の向上に向けて

- ・語彙力をつけるための取組み。(1, 2年生は言葉集め、3～6年生は、辞書の活用)
- ・文の構造に焦点を当て、系統立てられた指導の充実。
- ・説明文の学習で学んだ文章の書き方を、日々の言語活動にいかしていく。
(国語科だけでなく学校生活の様々な場面でいかしていく。)
- ・書くための見本となる型を示すなど、ユニバーサルデザインや合理的配慮を心がけて授業を行う。
- ・学習の最後に「ふりかえり」を書く時間をとり、自分の考えや学んだことをまとめる。
- ・文章を読み返す習慣をつけ、自分で推敲できる力をつけていく。
- ・朝の学習の時間や宿題の課題などを利用して、「書くこと」に関する課題に取り組む機会を設ける。

自ら伝える力

- ・学級での集団作りの研究を進め、伝える力だけでなく、受け取る力を育成する。
(安心して発信できる場を作る。)
- ・集団作りの一環として、総合的な学習の時間や特別活動などを活用し、クラスで話し合う機会を増やす。
(伝える場の設定、伝える必要性を感じる内容)
- ・発信の基本となる、日々のあいさつを大切にする。
- ・委員会活動で、よりよい学校にしていけるために自分たちができることを話し合い、発信する場を設定する。
- ・伝える手段の一つとして、タブレットを活用できるようにする。(ムーブノートやパワーポイントの作成など)

国語好き・算数好きの児童を育てる

- ・国語への苦手意識や抵抗感を軽減するため、特に課題となっている「書く力」「伝える力」を高めていく。
- ・国語科の研修・研究授業を行い、教師の指導力を向上させることで「やってみたい」「楽しい」「わかる」授業を目指す。
- ・子どもたちが、「できた」という喜びや達成感を感じられるよう、ていねいな評価を心がける。
- ・学期に一度、全教師で、6年生を中心とした補充学習を行う。それぞれの児童の実態に応じた学習をすることで、基礎基本の定着を図る。